NIE実践報告

1．タイトル：☆自分たちの課題や成果を文章化し、地域に発信できる力を身につける

2．学校名

高知県立須崎高等学校

3．実践者名（代表者名）

戎井　崇

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

産業社会と人間　112人

6．単元（本時の学習課題）名

講演内容を新聞にまとめる

7．目標（狙い）

勤労観や職業観を学び、社会の変化を考察しながら、自分自身の生き方や進路について考える学習内容を新聞形式にまとめる取組を行うことで、情報や自分の考えをまとめ、表現する力を身につける。

8．評価の視点

講演の内容をよく理解し、要点がうまくまとめられているか。詳細に記入され、かつレイアウトが美しくできているか。学習した内容を自分の将来にどのように生かすのかを考え、熱意をもって文章が書かれているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「メモの取り方」(1時間)　「文章の書き方、記事の仕上げ方」(1時間)　「プロの話を聞く(講演)」(5時間)　「産業社会と人間新聞を作る」(4時間)　合計11時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)新聞記者による講演を聞き、メモの取り方の技術を身につける。(1時間)
(2)あらかじめ取ったメモを基にして新聞記事を仕上げていく上で必要な知識を得る。(1時間)
(3)各分野で活躍する方々の講演を聞き、その内容をメモを取るとともに、勤労観・職業観を学び、生き方や進路について考える。(5時間)
(4)最も関心を持った人物の講演内容を記事にし、レイアウトなどを考えて新聞を作成する。(4時間)

(留意点)
・新聞のもつ性格上、個人の意見より講演の要点をまとめることに重点を置かせ、事実の部分と感想の部分を分けて書かせる。
・第三者が見て分かりやすいように、レイアウトや文章を工夫させる。
・生徒の文章表現をできるだけ尊重しながら、表記の仕方などについてアドバイスを行う。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒の授業評価アンケートでは、今回の取組について多くの生徒が肯定的な評価をした。また、新聞作りを通じて将来のことについて考える時間を持つことができたという感想も聞かれた。

12．成果と課題

＜成果＞
生徒たちには徐々に「聴く力」「まとめる力」「書く力」がついてきた。また、他の授業や他の講演会などでもメモを取る習慣がついてきた。
＜課題＞
1年次で身につけた力を次年度以降、どのように伸ばし、活用していくかという課題や、新聞づくりのさらなるレベルアップをどのように図っていくかといった課題などが挙げられる。